

平成31年度

単位施策評価表

所属 25150000

産業振興部 観光振興課

施策	6301 魅力ある観光交流・レクリエーション拠点の形成							
区分	妥当性	妥当	コスト削減の余地	有	受益者負担	適正		
	上位貢献度	有効	類似事業の有無	無	成果向上の余地	有		
対象	観光客							
施策が目指す姿	観光地としての魅力を更に向上させるため、特徴的な観光資源を有効活用した観光・レクリエーション拠点の整備・充実、多彩なイベント等の開催支援、拠点施設の適切な維持管理、観光地としての知名度の向上、インバウンド観光による来客者のおもてなし体制の強化等を図る。							
成果指標	観光客の満足度率（再訪問の意思）：5年間で90.0%（現状値86.1%） 観光施設の年間利用者数：5年間で340万人（現状値300万人）							
目 標 達 成 状 況			平成30年度	平成31年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	
	成果指標1 [%]	予定	86.80	87.60	88.40	89.20	90.00	
		実績						
	成果指標2 [人 / 年]	予定	3,080,000.00	3,160,000.00	3,240,000.00	3,320,000.00	3,400,000.00	
		実績	2,772,875.00	2,497,659.00				
		単位コスト	0.12	0.12				
	成果指標3 []	予定						
		実績						
		単位コスト						
	成果指標4 []	予定						
実績								
単位コスト								
トータルコスト (千円)	予定	360,985	302,189	314,045	0	0		
	実績	345,856	293,524	314,045	0	0		
内 部 評 価	貢献度	基本施策の目標指数「観光客入込数」を増加させるためには、観光地としての魅力ある拠点づくりが不可欠であるため、貢献度は高い。						
	達成状況	台風19号被災の影響により目標値に達成しなかったものの、各事業は適正に実施できた。また「蔵の街シナジーマルシェ」等の観光客誘客のための新規事業も実施した。						
	課題	新たに開発、磨き上げられた観光資源をSNS等を活用し効果的に情報発信を行っていく必要がある。						
	取組方針	令和2年4月に開設した観光資源データベースシステムを活用し、全市的な観光プランやモデルルートを創生するとともに、SNS等を活用した効果的な情報発信を行う。						
外 部 評 価								
単 位 施 策 達 成 の た め の 事 務 事 業	事業コード	名 称				トータルコスト(千円)	達成度	
	310506	観光資源開発活動補助金（岩舟）				2,250	100	
	312901	キュービクルカバー製作設置委託費				4,193	100	
	313302	観光行事負担金（大平）				12,150	100	
	313303	観光行事負担金（藤岡）				11,125	100	
	313305	観光行事負担金（西方）				5,250	100	
	313306	観光行事負担金（岩舟）				5,750	100	
	313401	観光行事補助金（栃木）				5,610	100	
	779602	大中寺・清水寺の森観光トイレ洋式化事業費				7,669	100	
	788101	地域おこし協力隊活動事業費（遊水地課）				4,292	100	
813201	地域活性化計画策定委託事業費				1,630	100		

単位施策評価表 補表

施策	6301 魅力ある観光交流・レクリエーション拠点の形成		
区分	妥当性	妥当	イベント開催の支援、観光施設の管理等を適切に行い、観光地としての魅力を向上させるため必要な事業であり、実施は妥当である。
	コスト削減の余地	有	事業実施後の成果や効果を検証することで、適正なコストの再確認を行う必要がある。
	受益者負担	適正	施設の維持管理に係る費用や各種イベントに係る支援など、受益者負担は適正である。
	上位貢献度	有効	「観光客入込数」増加のための貢献度は有効である。
	類似事業の有無	無	他に類する事業はなく、代替は困難である。
	成果向上の余地	有	地域が一体となって観光振興に取り組むことにより、更なる成果向上が見込まれる。
内部評価	貢献度	基本施策の目標指数「観光客入込数」を増加させるためには、観光地としての魅力ある拠点づくりが不可欠であるため、貢献度は高い。	
	達成状況	台風19号被災の影響により目標値に達成しなかったものの、各事業は適正に実施できた。また、「蔵の街シナジーマルシェ」等の観光客誘客のための新規事業を実施し蔵の街中心部の新たな観光資源を開発することができた。	
	課題	地域ワーキンググループにより新たに開発、磨き上げられた観光資源をSNS等を活用し、効果的に情報発信を行っていく必要がある。	
	取組方針	令和2年4月に開設した観光資源データベースシステムを活用し、全市的な観光プランやモデルルートを創生するとともに、SNS等を活用した効果的な情報発信を行う。 また、観光資源データベースシステムに新たな観光資源や観光資源となりうる資源を蓄積し、磨き上げを行っていく。	